ReMORI MONTHLY

2024年9&10月号

vol.23 INゆすはら

林業情報を発信！
りもりマンスリー

地域おこし協力隊卒業 株式会社KIRecub設立へ

地域おこし協力隊卒業。そして、起業へ！
下村 智也 | p.02

林業家を志し、新たなスタートへ

木質ペレット製造から林業家へ転身！
高橋 元気 | p.03

明日の伐採現場に期待！

中堅と若手が切り開く椨原林業の未来！
笹岡 高志 | p.04

P.02

P.03

P.04

02 YouTube

椨原町森林再生プロジェクト「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊のPR動画などを配信中！

KIRecub-きりかぶ-チャンネル

新たに立ち上げました！活動風景やイベントの様子などを配信予定！

03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

リモリメンバーが林業を通して椨原町の魅力を発信中！

山口佑貴　長谷川夏輝　荒木俊充　吉井香在　Coming Soon　Coming Soon

KIRecub-きりかぶ-

造林事業をメインに立ち上げた組織「*KIRecub*（きりかぶ）有限責任事業組合」です。林業がもっと面白く活気のある産業になるように様々な事業も展開していきます。

ゆすはら森のおさんぽ会

椨原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようちえん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、4歳と2歳の子どもたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募集中！０歳からどなたでも参加していただけます。一緒に自然を満喫しませんか？

WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-

協力隊を卒業した角金玄が個人事業主として開業。ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。

Coming Soon

Coming Soon

編集・発行：椨原令和の森林づくり協議会ReMORI-リモリ-　長谷川・笹岡
お問い合わせ：森林づくり脱炭素推進課　お電話：0889-65-0811
お気づきの点、ご意見・ご要望がございましたら上記までご連絡ください。

リモリマンスリーの
これまでの記事はこちらから

地域おこし協力隊を卒業
そして株式会社KIRecub設立へ

大学三回生の頃に経験したアントレプレナープログラム(起業家訓練)。そこから頭の片隅にあった、「起業」という言葉。地域に根付いた事業で起業をすると決意し、あれから15年。

2024年8月8日(木)大安吉日、葉っぱの日に『株式会社KIRecub』(きりかぶ)を設立しました。屋号の由来は、『KI』は立木、『Re』は再生、『cub』は未熟な。自分達はまだまだ小さい存在ですが、いずれ立派な立木の様に、苗木と一緒に根を張り、育っていくという想いを込めました。

振り返ると九年間のサラリーマン生活では、仕事の辛さ以上に楽しさ、やりがい、素敵な出逢いあり。コロナ禍に長女が生まれことで生活が一変。祖母の暮らす梼原町へ孫ターン移住を決断、そして脱サラ。

移住先の仕事、ゆすはら地域おこし協力隊では、大好きな梼原町の森林を守るため、前職とは全く畑違いの林業の世界に飛び込みました。始めはフラフラしながら重たいチェーンソーや燃料を担ぎ、息切れしながらも慣れない林道を登る。林業の親方には厳しくも、ときには優しくご指導いただき、今では急斜面での作業や擦り傷もなんのその。また、森林づくり課をはじめ梼原町役場の方々の手厚いサポートに何度助けられたことか。

そして全国各地、梼原町とパートナー協定を結ぶ様々な業種の森林環境先進企業の皆様との出会いは、自分に新たな林業の可能性とチャレンジを与えてくれるきっかけとなりました。企業の皆様と臆せずに対話できたのは間違いなく、前職の経験のお陰です。

それから協力隊期間中に仲間と共に活動外で立ち上げた『任意団体KIRecub』　『KIRecub有限責任事業組合』。全国的に育林従事者が減少するなかで、私たちは木を植えて育てる造林・育林事業を基軸に、林業、　による異業種とのコラボレーションで、森林と人を繋ぐ架け橋となり、従来の林業のイメージにとらわれない新しい働き方を目指してきました。そのこともあってかKIRecubでは、企業・団体の皆様からご支援いただきながら、広葉樹の苗木生産・森林の授業・育林体験ツアー・木製品の製作販売など幅広い分野で事業を行えています。

新たなスタートに思いを馳せる下村 さん

前職のときより確実に背負うものは増えましたが、協力隊・KIRecubでの仕事が楽しく、充実してワクワクした毎日を過ごすことができているのも沢山の方々に支えられているお陰です。関係者の皆様、誠にありがとうございました！

そして九月末日で三年間のゆすはら地域おこし協力隊の任期も終了しました。今後は株式会社KIRecubとして梼原町の豊かな森林を未来に残すため、新たなスタートラインに立ちます。

「森林の未来は人の未来」
森林づくりのように5年、10年、30年、50年、やがて100年と続く、会社を目指して。

３０代のメンバーが中心となり活動中

もっとFEATURE-フィーチャー-

株式会社KIRecub（きりかぶ）

下村＿智也を代表取締役として、令和6年8月より造林・育林事業を基軸にした会社として設立。
メンバーの大半は、移住してから林業を始め、前職も全く畑違い。林業の魅力をもっと知ってもらう為に事業を運営しています。

今回のREPORTER-リポーター-

株式会社KIRecub代表取締役
下村 智也 -Tomoya Shimomura-

高知県高知市出身の元地域おこし協力隊。
両親の出身が梼原町ということもあり、家族３人で広島から移住してきました。8月8日付で『株式会社KIRecub』を立ち上げ、造林・精油・森林イベントなど様々な事業に取り組んでいます。

林業家を志し、新たなスタートへ

チェーンソーによる造材の様子

前職の経験も活かし、早々に林業機械を乗りこなす

椨原に帰って来てまさか「山の中で林業をしたい」と思う日が来ると思わなかった。

私は、椨原高校卒業後、大阪で音楽活動や飲食業を経験した後、故郷の椨原町に帰って来ました。
帰郷後は、椨原町森林組合からゆすはらペレット株式会社に出向して約8年間、木質ペレットの製造に従事しておりました。ペレット工場で勤務し間もなく、森林づくり担い手育成塾に一期生として参加して、町内の若手林業従事者の皆さんと知り合い、色んな場所に視察に行き林業の流れを勉強できました。

担い手育成塾卒業後、若手林業研究会CoMORI（コモリ）にも参加し、町内の危険木処理や森林フェスティバルなど仕事別に林業体験をしました。
その中で、去年の夏頃から自分自身の人生設計を考え、一生使える技術を身に付けたいと思い、林業の先輩方にも相談に乗ってもらいました。
そして、今年6月に退職し、7月から担い手育成塾同期の川上政志さんと谷田真吾さんの2現場を行き来し学びながら働かせてもらってます。

夏真っ只中という事もあり、暑さや山の険しさに苦労してますが、想像していた以上にやりがいがあり魅力がいっぱいある仕事だと実感できています。

これからたくさんの苦労や危険がありますが、技術、知識、経験そして勘を養っていき諸先輩方みたいに担って行ける人材になれるよう安全第一で頑張ります。

今回のREPORTER-リポーター-

高橋 元気 -Genki Takahashi-

あああ

明日の伐採現場に期待！

高橋 元気クンは森林づくり担い手育成塾の一期生でした。塾のスタートは私が(株)高知放送を卒業した65歳の晩秋で、今年が74歳。高知市内からの雲の上の町通いは丸10年が近づきました。一期生は8人で、民間事業体と森林組合に4人ずつ所属。民間メンバーの仕事は伐採搬出でしたが、川上木材の川上 政志クン以外はまだ初心者の域だったと思います。彼らが年と共に逞しい中堅に育ち、役場推進課の配慮で塾生OBの集まり「CoMORI（コモリ）」を結成、谷田会長のもと協働（特殊伐採）と親睦（酒盛り）を深めてくれました。

—担い手塾がなかったら、俺らぁ、知り合わずに済んだかもしれん。

山の現場は遠く離れ、同じ仕事でも私服で会うと分からない。厳しい労働環境も手伝って、梼原林業は家族や親族を軸に支えられてきたと感じました。梼原の林業が活気に満ちた1990年代。自伐林家の集まり「ゆうりん」や製材業も加わった「維森」が誕生しました。それから紆余曲折を経て約30年。ようやく世代交代が実現してきた、との思いを強くしています。

（前項のように）高橋 元気クンがペレット製造から山の現場へ。８人の一期生のうち5人が、現場の第一線に立つことになりました。とても嬉しく思います。

塾のスタートと相前後して、国が資金援助する“緑の雇用”の活用状況を聞きました。梼原で林業をしたいと考えた人たちが「20人ほどが来てくれたが、定着できなかった」。希望する側、受け入れる側、双方に問題があったのでしょう。今回は何としても、この壁を乗り越えたい。旧森林の文化創造推進課が取り組んだ“地域おこし協力隊”制度の導入は、来町した角金 玄クン（現・WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-）と、それ以降のメンバーが素晴らしく、定住の方向が見えてきました。

—今後の課題は“法人化”です。

社会保険を整備出来ないと、息子や娘は親の家業を継げません。中山間最大の課題です。前提は「しっかり稼ぐ」ことです。川上 政志クンが先鞭をつけました。そして、下村代表の「KIRecub」が続いてくれました。次は、CoMORIのメンバーです。そのために、新たな学習が必要では？　ステップアップした勉強会を「自ら立ち上げる時季」ではないでしょうか？

—日本林業は構造変化を起こしています。

Ａ材の将来が見えなくなり、ＣＤ材が今は主戦場です。山林の所有形態も今後大きく変動するでしょう。巧みに対応しつつ、どう稼ぐか！ その方途を学び、知恵を出し合い、ネットワークを広げる新たな取り組みが必要だと、私は思います。中堅と若者が切り拓く梼原林業の未来に期待しています。

今回のREPORTER-リポーター-

梼原令和の森林づくり協議会「ReMORI」会長
笹岡 高志 -Takashi Sasaoka-

高知市生まれの７４歳。高知放送を退職後、週２回のペースで、梼原町を往復。８年が経過。梼原町産業担い手育成塾長（森林づくり）を経て、梼原令和の森林づくり協議会長。子ども３人、孫６人。拙宅は時々、孫たちで大賑わい。本日は静かです。